

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H101	生活経済論	1年	講義	2	中川英子
授業概要 私たちは生涯、お金と密接に関わりながら生活をしていくことになる。この生活に係るお金について学ぶこと、即ち、生活経済を学ぶことは、生涯、自立した生活を送るために不可欠なことである。また、新たな情報創造の基礎となる専門知識(生活経済の知識)を学ぶことで、社会に対する幅広い関心と知識もつことにもなる。授業では、冒頭に生活経済の知識を学んだあと、その内容について、アクティブラーニング形式で、図書館やインターネットによる調べ学習でより理解を深めていく。さらに前回授業時、図書館で調べた新聞記事を持ちより、グループ討議する。					
到達目標(学習の成果) ① 新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけることができること (DP2) ② 社会に対する幅広い関心と知識をもてるようになること、 ③ 生涯、自立した経済生活を送るための考え方もてるようになること。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	マクロ経済・ミクロ経済	経済の見方について、一国の経済活動からみる「マクロ経済」と、一主体(家計、企業、政府)の経済活動からみる「ミクロ経済」から、その概要を理解する。			
2	市場経済	市場における経済のメカニズムについて理解する。			
3	ミクロ経済としての家計	ミクロ経済の一主体としての家計の経済活動について理解する。			
4	家計をめぐる法則	エンゲル係数や消費者物価指数など、家計をめぐる法則について理解する。			
5	戦後の経済変化と生活の変化	戦後(第二次大戦)から今日までの約70年間、経済と人びとの経済生活がどのように変化してきたのか、時代を辿りながら、理解する。			
6	消費者問題	戦後(第二次大戦)以降の消費者問題の歴史と今日の消費者問題について理解する。			
7	家計の構造	家計の構造について、総務省の「家計調査」(総務省)の収入・支出分類などから理解する。			
8	高齢者世帯の家計	高齢者世帯の家計の現状について理解する。			
9	ライフサイクルと我が国の社会保障制度	日本の社会保障制度が、生涯にわたり私たちの生活のセフティーネットとなっていることを理解する。			
10	自助・共助・公助	自助・共助・公助の意味を理解する。			
11	生活設計(1)	生活設計の必要性について理解する。			
12	生活設計(2)	ライフステージ別の家計について理解する。			
13	生活設計(3)	ワークシート形式の冊子を利用して、自身の生活設計を作成する。			
14	生活と環境問題	持続可能な生活の実現のために、地球の温暖化問題や資源・エネルギー問題について考えていくことの重要性を理解する。			
15	生活経済を考える	生活経済の観点から、この半年間、スクラップした新聞記事の内容について、グループおよび全体で討議し、考える。			

準備学修(授業外の自己学修)

- ・日々の生活は、経済とは不可分であるが、その最新の情報がわかるのが新聞である。授業内容の理解を深めるためにも、
- ・日頃から自宅や図書館で新聞記事をしっかりと読んでおくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

- ・授業時課題の提出 40%
- ・生活設計の提出 30%
- ・新聞記事スクラップ帳の提出 30%

観点	S	A	B	C
新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけることができること (DP2)	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている。	十分、理解できている。	一定程度、理解できている。

教科書

特になし

参考書等

重川純子『生活経済学』放送大学教育振興会 2016 3,132円

井堀利宏『図解 大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる』株式会社KADOKAWA 2016 925円

履修上の注意・学修支援

- ・本授業は、生涯、自立した経済生活を送るために、生活経済の観点から理解していこうとするものである。授業内容については、すべて自分自信のこととして捉え、学習していくこと。
- ・わからないことは、授業中に質問して、理解しておくようにすること。